

本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り複製および再配布することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

The University of Tokyo 学術フロンティア講義 2024S 藤原 辰史



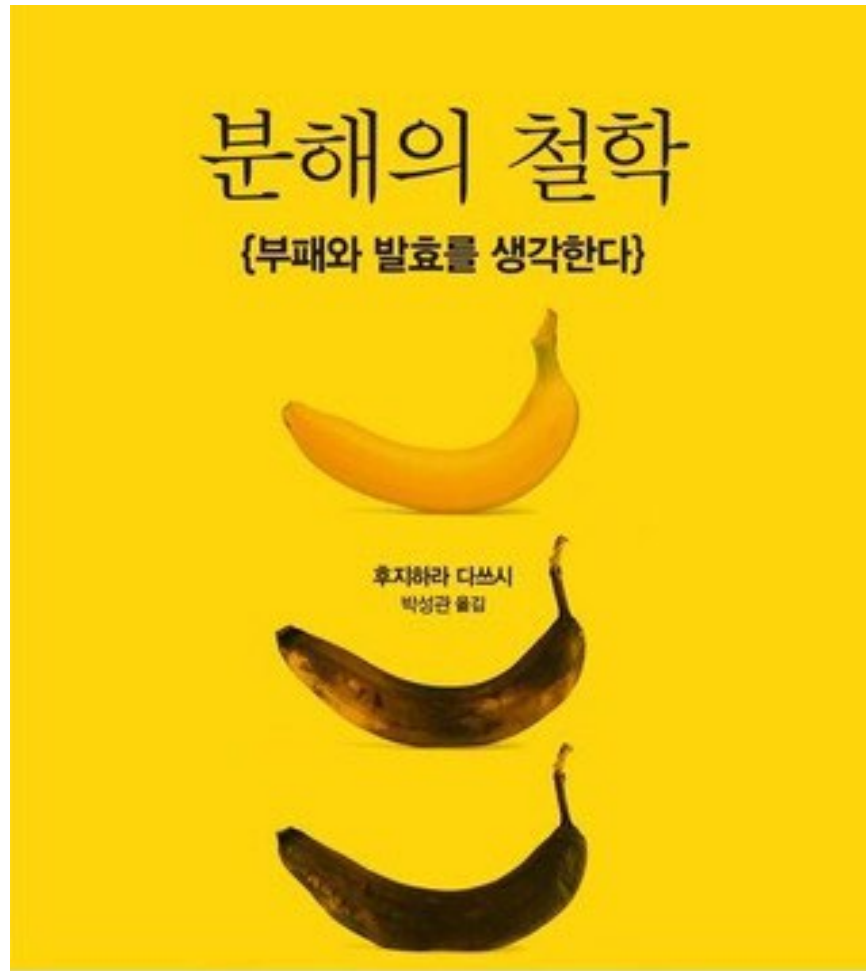
分解の哲学

「食べる惑星」の脱領域的研究

藤原 辰史

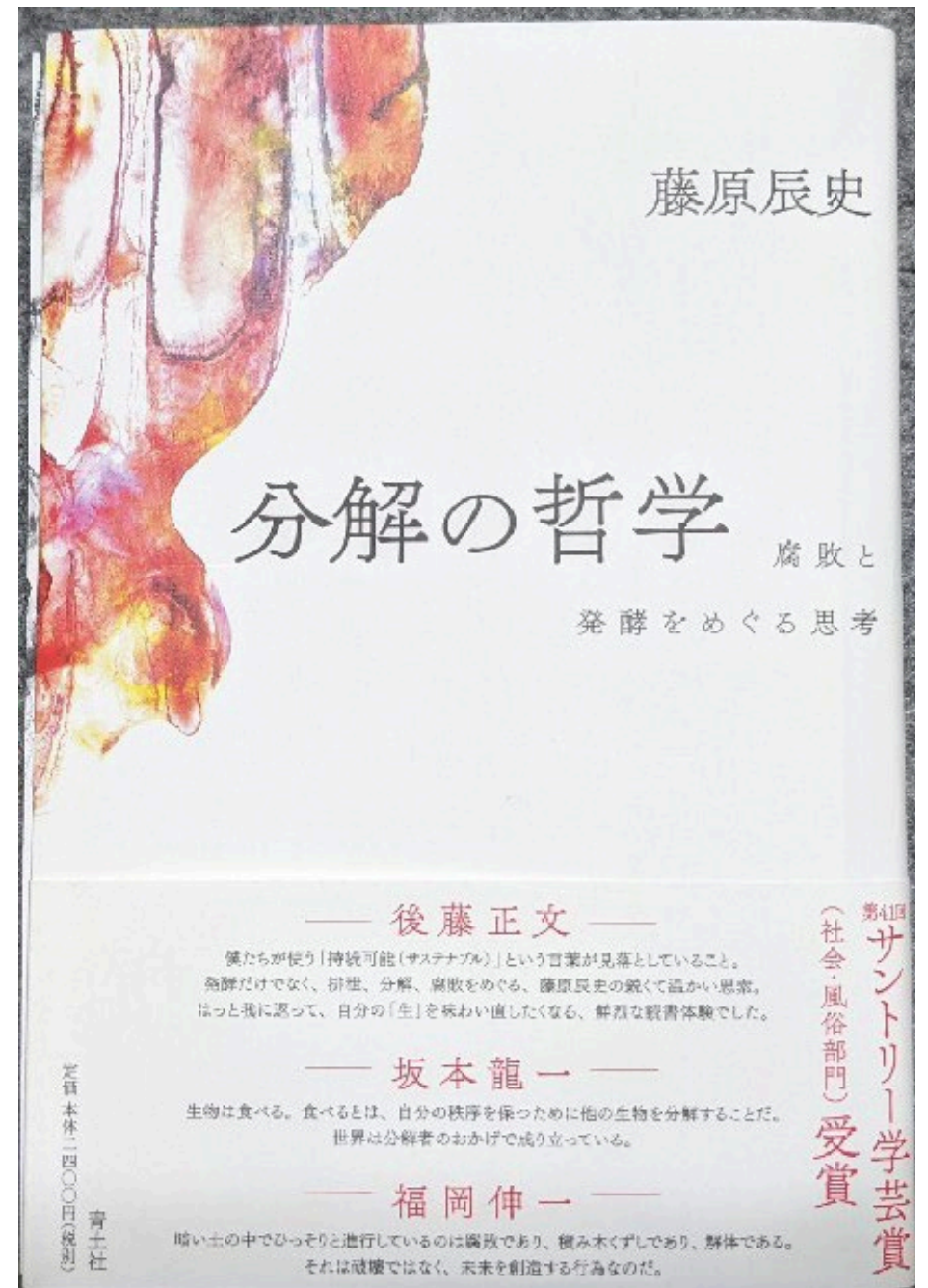
(京都大学人文科学研究所)

分解の哲学韓国語版（ほぼ全ての新聞で書評された）



무너지는 나무블럭에서 소똥구리까지...
부패하고 발효하는 세상과 마주하는 법
생선과 성장의 관점에서는 보이지 않던 세상
버려지고 매기된 것 속에 풍요로움이 울러넘친다

藤原辰史『分解の哲学 -腐敗と発酵をめぐる思考-』パク・ソングァン訳、2022



藤原辰史『分解の哲学 -腐敗と発酵をめぐる思考-』青土社、2019

1 「分解」を考える契機＝使い捨て時代

1. 核実験と原発事故で拡散し、十万年も毒を放つ**放射性物質**、**プラスチック**、合成農薬、合成洗剤、防腐剤、有機水銀、ヒ素。豊穡な分解世界である**海と土の破壊**。
1. 使い捨てされる5000万人の**現代奴隷**たち（性奴隷、農業労働者、技能実習生）
2. 自然界で分解されないものを、社会でリサイクル・修理されにくいものを、大学や企業が作りすぎてきたこと、分解されないもので人間の体を破壊してきた歴史があまりにも忘れられすぎている。大学や企業がその**社会的責任**を果たすのであれば、歴史を直視しする誠実さと知性が必要。

- 1 もっと使わせろ
 - 2 捨てさせろ
 - 3 無駄使いさせろ
 - 4 季節を忘れさせろ
 - 5 贈り物をさせろ
 - 6 組み合わせで買わせろ
 - 7 きっかけを投じろ
 - 8 流行遅れにさせろ
 - 9 気安く買わせろ
 - 10 混乱をつくり出せ
- (電通十訓 1970年)

・ 人類はいつか寿命さえも乗り越える時代が来るかもしれません

・ 一部の組織では、若返りも可能な状況となってきましたので、老化をコントロールすることを目指し、それぞれの立場でそれぞれの臓器や組織での老化時計を調節しようではありませんか。経済学的、社会学的議論も進んでおり、老化が病という概念が社会にも受け入れられる時代を目指したいものです。

(日本抗加齢医学会HP)

1950s~

日本窒素肥料
株式会社は、
合成窒素肥料生産
によって人口増
に貢献したが、
経営転換を焦る
あまり、
有機水銀を
不知火海に放出。
魚を汚染した。

著作権の都合により
画像をぼかしています



著作権等の都合上、
ここにあった書影を削除しました。

石牟礼道子『苦海浄土 わが水俣病』
講談社（1969）

今なお、胎児性水俣病を抱える人々が多い。
水俣病は終わっていない。

2015/10/10に石牟礼道子さんと対談(『婦人の友』)。
2023/11/1に「水俣・福岡展」に参加し、
水俣病の父母と祖父を亡くした杉本肇さんと対談した。
母の栄子さん。「差別もあったが、病はのさり (賜物) だった」

→今なお、世界各地で水銀汚染



↑ ヴェトナム戦争期メコンデルタで農薬を散布する米軍
↙ ホーチミン市の「戦争証跡博物館」の枯葉剤被害者の展示
← 枯葉剤で被害を受けたマングローブ林



枯葉剤 = 除草剤 → 生態系と食料への攻撃

イスラエルのガザへの枯葉剤攻撃2014-2018

三〇回の除草剤を散布

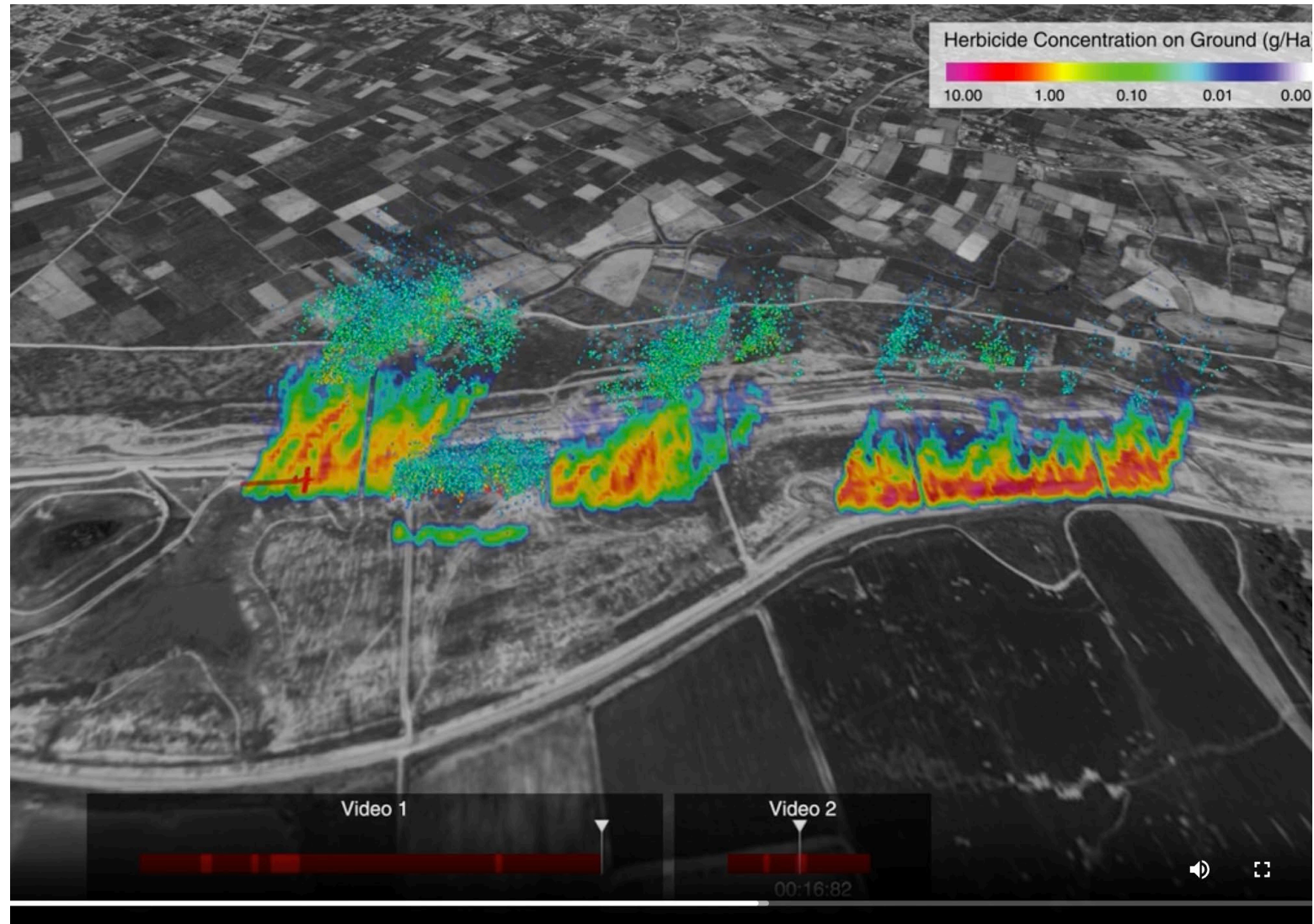
使われた農薬

ジウロン

オキシフルオルフェン

グリホサート

→ヴェトナム戦争との類似性



出典：Forensic Architecture. "Herbicidal Warfare In Gaza".
<https://forensic-architecture.org/investigation/herbicidal-warfare-in-gaza>

フィリピンのミンダナオ島のバナナ農園 に飛行機で撒かれる日本製の「農薬カクテル」

現在



ラカグ村上空を飛び、農薬を散布する小型飛行機（2017年12月撮影）



農薬を浴びた場所の皮膚がただれてしまっている少女（2017年12月撮影）

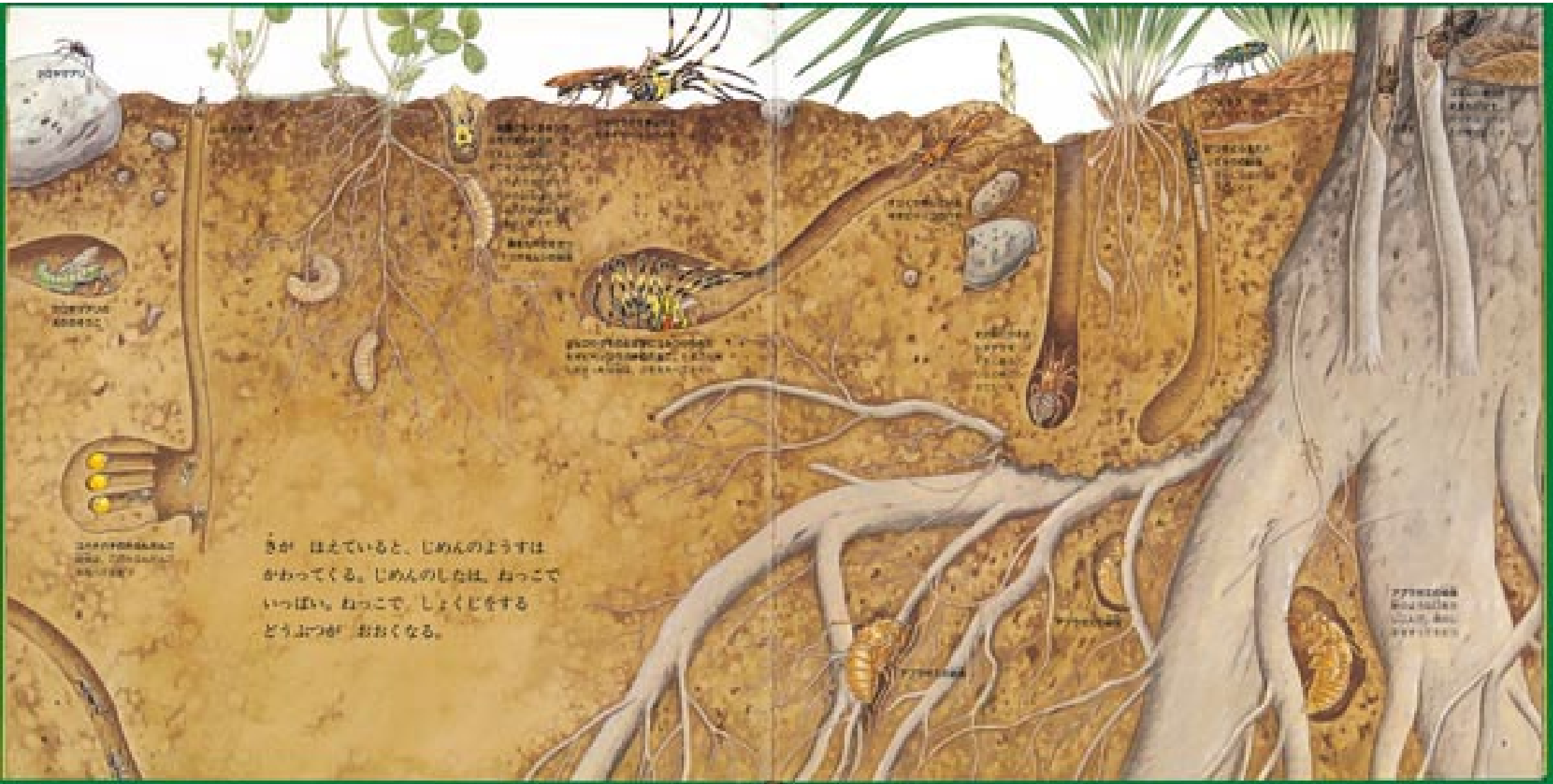
出典：アジア太平洋資料センター『調査報告書: バナナが降らせるフィリピンの「毒の雨」』（2020年3月20日）
http://www.parc-jp.org/kenkyuu/2019/banana_poison_rain2020.pdf

現代の焦点としての廃棄物

1. 大量生産、大量消費、大量廃棄。
2. フードロス→捨てた食料廃棄物と生産する農作物の金額が同じ日本。
3. 衣服の廃棄→パリ・コレクションの深い罪。
4. 過剰なアンチエイジングブーム(年を重ねるのは美しいのに)
5. 「生産領域」「消費領域」の肥大化。
6. 使い捨てられる人間。

2 分解とは何か？

- 食べる活力の弱い生態系の中で。
- 人間が打ち捨てられる社会の中



生態学における「分解」 ——「食べる」現象の拡張的考察

- Decomposition/Zersetzung
- M. Megon, J. L. Harper, C. R. Townsend 『生態学Ecology』（第四版、京都大学学術出版会、2013年、426頁）の定義

分解は、死んだ生物組織が徐々に崩壊することと定義され、それは物理的作用と生物的作用の両方によって進行する。分解は、複雑でエネルギーに富んだ分子が、その消費者（分解者とデトリタス食者）により二酸化炭素、水、無機栄養塩にまで分解されて終わる。

- 土壌のもつもう一つの重要な機能は、[……]「分解者」としての機能である。森林の落葉・落枝(らくし)はいつか分解されて、その中に含まれていた**植物栄養は再循環**される。動物や人間の作り出す排泄物も土壌に還すことによって「こやし」としての価値を得る。これらはいずれも**土壌のもつ分解者としての機能**に負っており、環境の保全と浄化に果たす土壌の役割はきわめて大きい。
- 従来は、土壌の働きを、もっぱらその生産者としての機能によって評価し、物質のリサイクルに果たしてきた**土壌の分解者としての機能**はほとんど評価されてこなかったきらいがある。(久馬一剛編『最新土壌学』朝倉書店、1997年、7頁)。

- 落葉の一連の分解過程に複数の土壌動物が関与している。落ちて間もない落葉は硬くて乾燥しており、ワラジムシ、オカダンゴムシ、ササラダニ、ミミズなどの一次分解動物によって摂食・粉碎される。通常一次分解動物では、炭水化物、脂肪、タンパク質は消化・吸収されるが、ヘミセルロース、セルロース、リグニンはほとんど消化されずに排泄される。落葉は粉碎されるとともに、その含水量を増す。一次分解動物のフンと粉碎された落葉はトビムシ、ヤスデ、ミミズ、センチュウなどの二次分解生物によりさらに分解され、土壌の団粒化 [隙間の多い土壌]、腐植粘土複合体の形成に寄与する。

(久馬一剛編『最新土壌学』朝倉書店、1997年、58頁)。

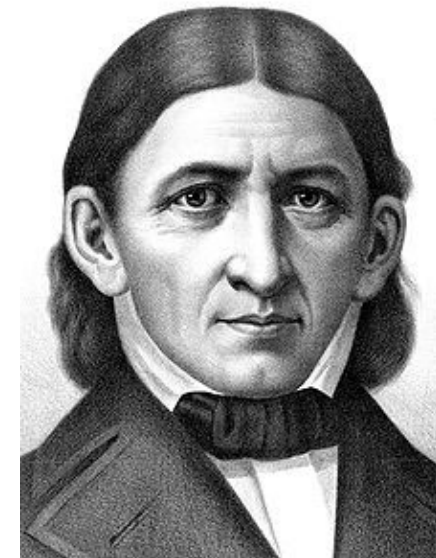
1. 生態学の「**分解Decomposition/Zersetzung**」の現象が、人間と非人間と**乗り移っていく**ような世界。
2. 植物の根の世界や屑拾いの世界などを事例としながら、人間世界と非人間世界を行き来する分解現象。
3. フリードリヒ・フレーベルFriedrich Fröbelの思想

一歳から三歳までの子どもが、自分が扱える**完成品の物体**を、その形態や色を観察したあとで、それを手にもってあちこちに動かしたり、その硬さを試したりしたかと思うと、こんどは、その物体に新しい特徴を発見したり、新しい使い方を見出したりするために、**その物体を分解しよう**としたり、**少なくともその形を変化させよう**としたりするのを注目しよう。（フリードリヒ・フレーベル『小原國芳＋莊司雅子監修『フレーベル全集 第四巻 幼稚園教育学』莊司雅子訳、玉川大学出版部、一八〇頁。）

- 1) 崩して作るものとしての積み木Spielgabe
- 2) 植物と人間がともに育つ幼稚園Kindergarten



Kippelboy, CC BY-SA 3.0,
via Wikimedia Commons



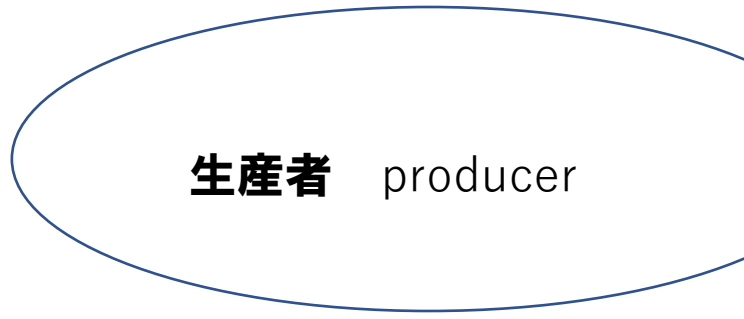
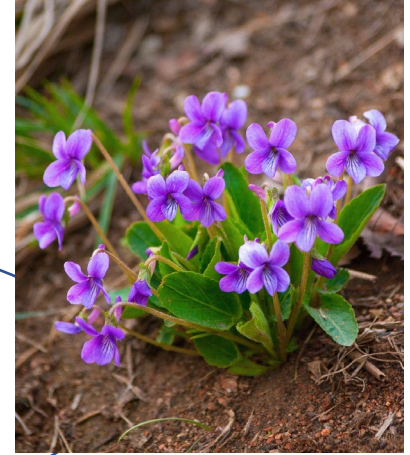
1782 - 1852

食現象の拡大的理解

生態系の三要素
ecosystem[1935]

太陽光

熱は循環しない



「調和」ではない。
「弱目的性」のあまりにも多様すぎるあり方が認められている。それを破壊できるのは地球上では人間だけ。

物質循環 material circulation

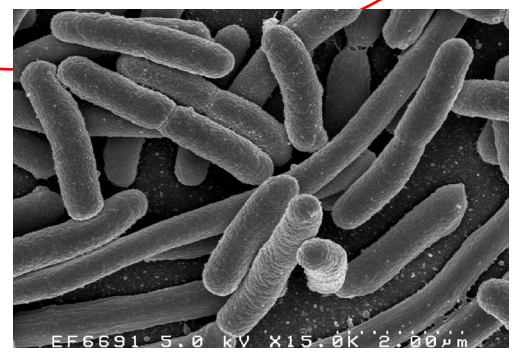
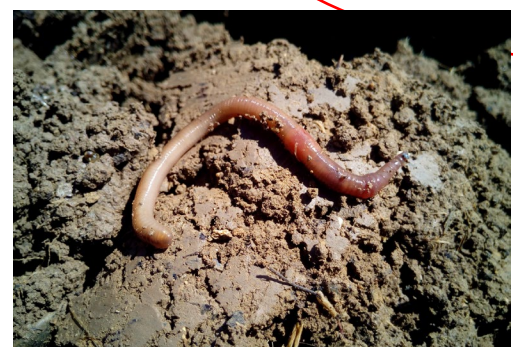
消費者 consumer



人間 =
口唇と肛門
をつなぐ
チューブ

分解者 decomposer

人間の髪の毛と鱗片も食べる



人間や動物の大腸

植物の根と同様の構造

栄養の吸収

食べもの（うちなる外）

微生物層 = 免疫機能

排泄
=
次の
分解者の
食べもの

人間と家畜への抗生物質の多投による
腸内細菌叢の弱体化と耐性菌の蔓延

微生物のえさ

（マーティン・J・フレイザー 『失われてゆく、我々の内なる細菌』 みすず書房、2015）

食と農の「未来」？

1. 牛の肝細胞から培養肉
2. 植物工場（害虫も土壌汚染もない）
3. VRで食事。
映像 + 香料 + 3Dプリンターゼリー
4. 遺伝子編集

物質循環から切り離された培養肉で地球温暖化が救えたとしても、それは本当の救いか。

cf: 藤原辰史『農の原理の史的研究』創元社

日経サイエンス編集部 編『別冊日経サイエンス222 食の未来
地中海食からゲノム編集まで』日経サイエンス社、2017

別冊日経サイエンス SCIENTIFIC® AMERICAN 日本版

食の未来

日経サイエンス編集部 編

地中海食からゲノム編集まで

野菜が体によい本当の理由
微量毒素の効用

脳を元気にする食物

ビタミンDの多彩な効用
がんや感染症にも

体を守る苦味受容体

CRISPRと
「組み換え」作物
バイオ農業の行方

幹細胞から食肉

温暖化が脅かすワインの味

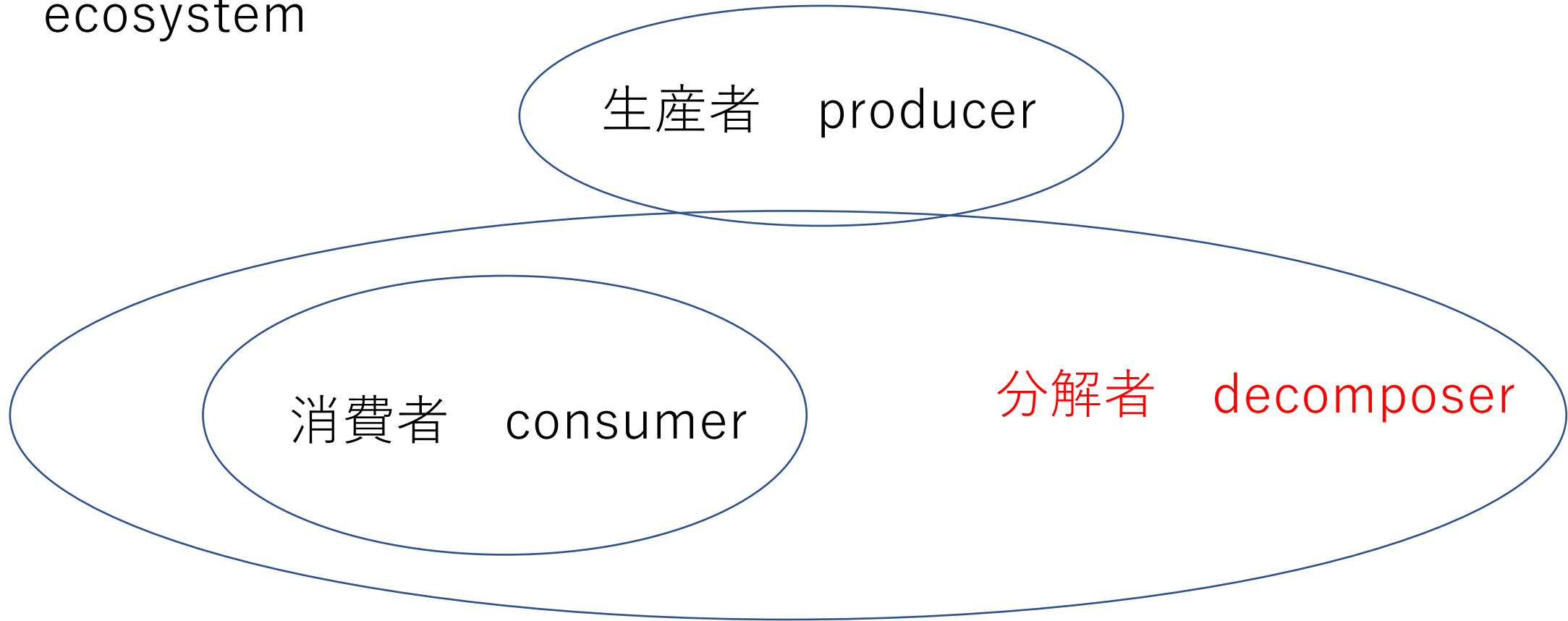
日経サイエンス社

定価：本体2000円＋税

しかし、経済概念によって説明された20世紀
生まれの生態学の問題。

消費も分解過程とすれば（食現象の拡張）

ecosystem



分解の副産物としての生産

ecosystem

生産者 producer

消費者 consumer

分解 = 食べることで副産物 byproduct
を意味出す

発酵 = 微生物の力を根源に据えた

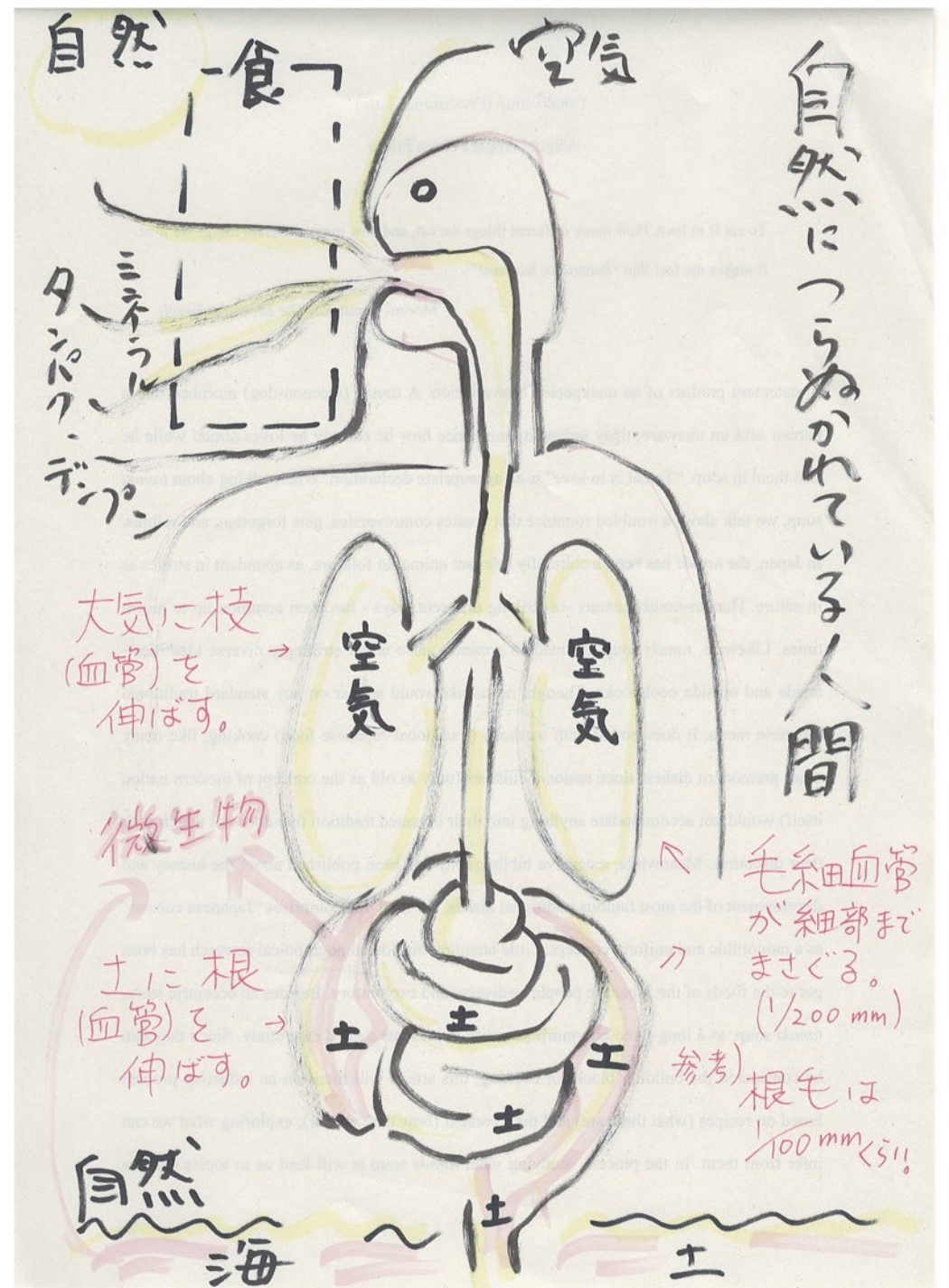
「**副産物**」の可能性

アルコール、エネルギー、ガス、糖

分解者 decomposer

分解者としての人間

- 一日5000万の鱗片(数千の微生物が付着)を地面に落とす人間
- 腸内細菌や皮膚の常在菌など100兆の微生物の住処
- 「食べる」と「排泄」のあいだ=人間チューブ論(美術手帖)
- 「食べる」と「排泄」のあいだ=発酵食品



2 人間社会における分解

分解 = 食べることで副産物を
生み出す

- ・古いものを収集、整理
- ・リサイクル
- ・芸術Kunst
- ・食べることによるコミュニティの形成

economic system

生産者 producer

消費者 consumer

分解者 decomposer

cf: 開高健『日本三文オペラ』小松左京『日本アパッチ族』
梁石日『夜を賭けて』で描かれた大阪の鉄屑拾いたち。



仕切場で働く著者(堺川 豊和郎)

梶大介 "バタヤ物語：俺たちだって人間だ". 第二書房. (1957)



屑拾い『北為画柳梅』

そして実際に、人間社会の分解者と生態系の分解者は共同作業によって、分解を遂行し、循環（物質の再利用）に貢献している。

参考例

- バタヤの集めた古紙が（戦前）警察によって「消毒」の対象となる。衛生政策の対象。危険人物と危険な細菌の巣窟。
- 農民が人間社会の廃棄物を土壌に戻し、微生物に分解させて、土壌の豊穡化を可能にする。

Alfred Sohn-Rethel, Das Ideal des Kaputten:
Über neapolitanische Technik, in: *Frankfurter
Zeitung*, 21. März 1926.

ナポリ人は、卓越した名人芸で、自分の所有する壊れた自動車を、街頭で見つけたような小さな木の棒という予想外のものを取り付けて、ふたたび走らせることができる。だがもちろん、当然のことながら、まもなくそれはふたたび壊れるだけだ。というのも、完全に修理してしまふことは、ナポリ人に嫌悪感をもたらすから。ナポリ人はむしろ完璧な自動車などハナからあきらめているのである。→「ナポリ人」のいい加減さになんとなく、心が解放される。

例：世田谷の襪褌市

- 襪褌は足袋、股引、シャツ、手袋、手拭、袴(あわせ)、単(ひとえ)物、前掛け、襦袢、羽織、袴纏、婦人の湯巻、手巾、靴下、糸屑にて、荒物は柄杓(ひしゃく)、硯箱、火鉢、茶盆、大小の桶や盥(たらい)、下駄雪駄((せった))、箆類、荒縄、小児の便器、古板、机、鋤、鎌、鉞、斧、熊手、鶴嘴(つるはし)、鋤、篋(へら)、薬缶、鉄瓶、明樽((あきだる))、明壇(びん)、米、麦、粟、蕎麦、豆類など数えも尽くせず。

(幸徳秋水「世田ヶ谷の襪褌市」中川清編『明治東京下層生活誌』岩波文庫、1994年、190頁。初出は、『平民新聞』(1903年12月27日付)、190-191頁)。

鉄屑拾いの文学

開高健 『日本三文オペラ』 1959

小松左京 『日本アパッチ族』 1964

梁石日(ヤン・ソギル) 『夜を賭けて』 1994

屑拾い（社会から遺棄された人々）を通じて のコミュニティ形成の歴史

著作権等の都合上、
ここにあった写真を削除しました。

著作権等の都合上、
ここにあった写真を削除しました。

3 分解の副産物としての芸術

- この世界の「破壊」の中で、何に言葉を委ねれば良いのか。
- せめて、これまでの価値観をひっくり返す芸術表現に糸口が。

器のひびとわれ、心のひびとわれ

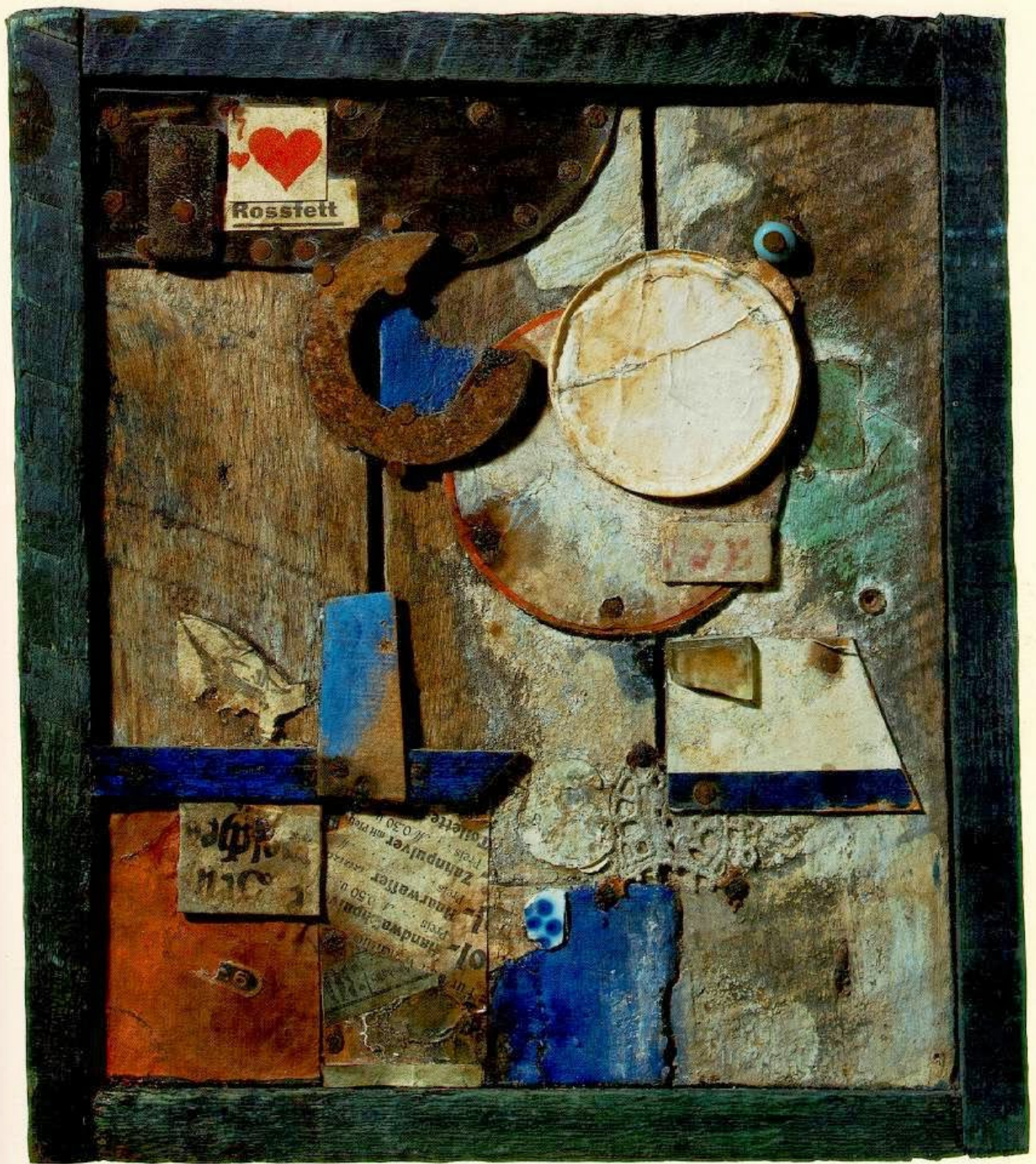


↑ 景色

堀道広さんが金継ぎした皿。2019年3月5日（撮影：筆者）

金継ぎ

1887-1948 クルト・シュヴィッターズ



Merzbild Rossfett (1919)→

「ある日、ごちゃごちゃに捨てられていたゴミの山で、自転車の錆びたハンドルと、そのすぐ脇に古いサドルがあるのを見つけたんだ。（中略）稲妻のなかで、ごみが私の心のなかで一つになった。この雄牛の頭のイメージが何の考えもなしに頭に浮かんできた。」（『人間とごみ』222頁）

著作権等の都合上、
ここにあった写真を削除しました。

Picasso, Tête de taureau (1943)



大小島真木の作品
『分解の哲学』との共鳴

《 胞衣 | Ena 》 (Size:
225 × 1149) 部分

©2022 Maki Ohkojima
Courtesy of Sezon
Museum of Modern
Art, photo by Ken Kato

ギブミーベジタブルの特徴



1. 入場料=野菜

お金の役割とモノの
価値について考える
きっかけ

4. 残った野菜= 出演料/報酬

出演者/スタッフ/関
係者全員で分け合う



一度、祭壇「やさいだん」に捧げられる



2. 料理人->即興料理

当日の偶然の出会いが
一皿に！参加者の選択
が影響を与え合う

3. 料理は無料で提供

食べることで
その場のエネルギー
の循環の一部となる





プリズン・サークル 坂上香監督



取材許可まで6年、撮影2年
初めて日本の刑務所にカメラを入れた
圧巻のドキュメンタリー

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

PRISON プリズン・サークル CIRCLE

www.prison-circle.com

ほくたちがここにいる
本当の理由

監督・制作・編集：坂上香 | 撮影：南幸男 坂上香 | 録音：森英司 | アニメーション監督：若見ありさ | 音楽：松本祐一 鈴木治行
製作：out of frame | 配給：東風 | 2019年/日本 / 136分 / DCP / ドキュメンタリー ©2019 Kaori Sakagami

- 中国山地の山間にある男子刑務所で、受刑者たちが輪になって番号でなく名前で呼ばれ話している。「回復共同体」と呼ぶ日本では珍しい更生プログラムだ。この参加者は再入所率が低い。参加者の多くは、ふたをしていた虐待の記憶をまるで傷口を押し広げるように思い起こす。父親によって手の甲に押されたたたばこも。性器をくわえさせられるなど持続的ないじめを受け、家族にも愛されず猫にだけ心を許していた孤独も。「感盲」と呼ばれる状況から、少しずつ感情を取り戻していく。

次に自分の罪と向き合う。…

→精神のエコロジー

4 おわりに

1. 人間世界も生態世界も崩壊に向かっていて、そこから逃れるのもたぶん難しい。「グリーンウォッシュ」（＝きれいごとでごまかす）では何もならない。
2. 工場でも、企業でも、大学でも、生産でも、消費でもなく、自然の分解の世界としての土壌と海、そして、それらと太陽光を用いて唯一光合成ができる植物を真ん中に置きなおす。
3. 社会の分解の世界としての屑（再生）の世界。
4. 「汚い」「穢れている」とされる分解世界の価値観の転覆は、表現者の課題でもある。
5. 「食世界」と「エコロジー」の拡大的理解。